

ピースツーリズム推進懇談会（第3回）

平成29年（2017年）9月11日

目次

第2回懇談会における意見を踏まえた「目指す姿の方向性」と「今後の検討の方向性」について	
1 「目指す姿の方向性」(案)	3
2 「今後の検討の方向性」(案)	4
ヒアリング調査実施状況について	5
具体的な検討内容について	
1 情報発信について	
■懇談会意見及びヒアリング調査での意見	
▷伝える内容	6
▷発信方法	8
2 ルート設定等について	
■懇談会意見及びヒアリング調査での意見	
▷ルート設定にあたっての考え方	10
▷平和に関連する施設や場所・場(以下「場」という)	11
▷配慮すべき事項	12
▷ルート案(たたき台)について	13
3 迎える市民の積極的な関与について	
■懇談会意見及びヒアリング調査での意見	
▷迎える際の対応	14
▷関与のあり方	15
第3回ピースツーリズム推進懇談会の意見交換テーマ	16
次回懇談会の日程	17

第2回懇談会における意見を踏まえた「目指す姿の方向性」と「今後の検討の方向性」について

1 「目指す姿の方向性」(案)

(第2回懇談会での意見)

- ・広島への平和への取組を伝えることが目的でなく、取組内容を通して理解を深めていくことが目的ではないか。
- ・市民の生き抜いてきた物語を色々な形で伝え、来訪者と市民が出会い、行動へ繋げるということを挿入すべきである。
- ・来訪者と市民の双方が関与するピースツーリズムを盛り込むべきである。

▷国内外の来訪者が被爆の実相に触れるとともに、被爆前からの歴史・文化、今の広島に接し、さらに戦後の復興に向けた市民の努力にも思いを馳せることができるような、丁寧な案内を確立していく。

▷これにより、来訪者が平和とは何かを考え、平和への思いを共有していく。

▷さらには、来訪者がその後の日々の生活の中で、核兵器廃絶・世界恒久平和の実現に向けた行動を起こすことへの動機付けに繋げる。そのために、来訪者が広島に関する情報をしっかりと受けとめ、考えられるよう、市民が協力していくピースツーリズムを推進していく。

2 今後の検討の方向性（案）

（第2回懇談会での意見）

- ・「迎える市民の積極的な関与について」の内容は、目指す姿の方向性案の2つ目の内容（市民と触れ合いながら巡る）を挿入するとよい。

情報発信について

▷まずは、外国人旅行者、修学旅行生を主な対象として、被爆の実相を知り、平和への思いを共有してもらうために、バーチャル・リアル両面での効果的な発信内容・方法を検討する。

ルート設定等について

▷被爆の実相への理解を深めてもらうことを基本に置き、被爆前からの歴史・文化や復興してきた足跡なども理解できる施設や場を巡るルートを検討する。

▷その際、関連の施設や場を巡るだけでなく、平和について考えることができる場、休息の場なども含め、来訪者が伝えたいテーマを感じることができる、かつ、来訪者が巡りやすいルートを検討する。

▷ルートの検討に際しては、1つのルートに限らず、伝えたいテーマ、地理的な範囲、移動手段等を考慮した複数のルートを検討する。

迎える市民の積極的な関与について

▷スマートフォン等の情報端末により、ルート案内や施設解説をするのみならず、市民と触れ合いながら巡る方策を検討する。

ヒアリング調査実施状況について

今後、ピースツーリズム推進事業に資する意見や提案などを集約するための、ヒアリング調査を実施する。

● 専門家・有識者等、観光関係・旅行会社等へは、ルート案作成後に調査を実施する。

調査対象者等	7月		8月			9月			10月		
	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
外国人在住者		第2回ピースツーリズム推進懇談会					調査対象者のうち2者が多忙により当初予定の8月にヒアリング実施できなかったため、9月に実施予定				
ゲストハウス等							調査対象者のうち1者が多忙により当初予定の8月にヒアリング実施できなかったため、9月に実施予定				
平和・原爆関係の団体等											
行政機関等											
地元関係団体等											
専門家・有識者等											
観光関係・旅行会社等											

9月1日現在ヒアリング調査実施状況（調査対象40名のうち13名実施）

外国人在住者1名、ゲストハウス等2名、平和・原爆関係の団体等5名、行政機関等5名

具体的な検討内容について

1 情報発信について

■ 懇談会意見及びヒアリング調査での意見

▷ 伝える内容

- ・訪れた施設や場の被爆の実相のみならず、被爆前の歴史、被爆後から復興に向け人々が取り組んだ内容も伝える。

(懇談会意見)

	意見
第1回	<ul style="list-style-type: none">・被爆当時市内に在住していた外国人も被爆したエピソードも加える。・「被爆体験」を原点とし、こんな悲惨な体験を二度と起こしてはいけないということを国内外の来訪者に伝える。・夜の過ごし方を加えることにより、来訪者の滞在時間を延長する。・廃墟の中で車を引いてパンを売ったところから始まるアンデルセンや、広銀、広電など、企業の歴史と精神を伝える。
第2回	<ul style="list-style-type: none">・現代美術館の発信力を高める。また、現代美術に特化した事業だけではなく、市の施設として、多くの市民に関心を持たれるような事業も企画していく。・平和首長会議の取組をより力強いものにして、平和記念資料館を訪れる来訪者に伝える。・広島から海外へ移住した人達から、戦後の広島への支援があったことを伝える。

(ヒアリング調査)

意見	発言者
原爆ドームの保存までの経緯や、原爆の子の像の建立の経緯などの情報を広める。	広島YMCA 中奥事務局長
原爆によって、いかに不条理に命が奪われたかが分かるような伝え方をする。	ハチドリ舎 安彦店主
原爆だけでなく、世界の戦争など、色々な切り口から情報が得られる方が良い。	平和のためのヒロシマ通訳者グループ 小倉代表
広島は世界を見る窓、世界平和を国際的に考えることのできる平和拠点になるべきである。	平和のためのヒロシマ通訳者グループ 小倉代表 広島県平和推進PT 下崎課長
広島城の再建は、復興のシンボルとして市民の誇りであった。広島城を、武家文化や城郭建築の視点だけではなく、戦前・戦後のことや、関わった人々の歴史の事実を伝承してゆく場所としていく。	広島城 秋政主任学芸員
人類史上最初の被爆地であるという実態を学ぶとともに、原爆投下の直前まで市民の暮らしがあったことを知らせる。	広島市郷土資料館 村上学芸員
被爆の惨状を伝えるのはもちろん、世界平和の創造へ向けた未来への取り組みが必要である。具体的には、文学や音楽などを振興させ“平和文化事業の交流ができる街”にする。	広島平和文化センター 岩崎常務理事
「被爆体験を伝える都市」から「平和文化のモデルとなる都市」へ移行する時期にきている。アートを用いて平和と全ての人々の幸福に力を注ぐ都市として発信する。	Peace Culture Village スティーブン・リーパー代表理事
<ul style="list-style-type: none"> 核兵器の脅威、戦争による市民の被害の実相、復興、そして現在の被爆者の苦悩等の全てを伝える。 そこにある被爆建物等のみに意識を向け過ぎないこと。広島街全体が被害の場所であり、様々な道路やスポットに被爆者らが伝え続けてきた被爆体験の背景があるということを、正確に伝えていくべきである。 	Peace Porter Project 保田代表
過去の实相を伝えるばかりでは、若い人には昔のこととして伝わってしまう。平和について自分とつなげて考えるような現代的な視点を加える。	これからの学びネットワーク 掘江代表
昔の記憶を守りつつ、未来へ向けた平和への文化的交流などを加える。	国連訓練調査研究所 広島事務所 隈元所長

▷ 発信方法

- ・来訪者の興味・関心に応じた情報提供ができるようにする。
- ・来訪者が分かりやすいよう、情報への到達のしやすさ、イメージのしやすさを追求する。
⇒これらを実現するために、まずは、テーマ性を有したバーチャル面での発信方法として、スマートフォン等を活用した方法から着手する。

(懇談会意見)

	意見
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・御幸通を含めた郷土資料館、広島城、水道資料館、江波山気象館などの職員が持つ情報を伝える。 ・被爆建物を見るだけではなく、そこでは被爆時までどんな営みをし、8月6日に何が起こったのか、イメージできるコンテンツの作り方、説明の仕方が必要である。 ・映像でその過程を見られるようにする。 ・そこに行けば伝えたい内容が理解できるような説明板を設ける。
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・劣化した説明板の補修、見にくい説明板を改善するとともに、必要に応じて増設する。 ・GET HIROSHIMAの被爆樹木の記載を活用して地図に落とし込んでいく。 ・慰霊碑はまとめてマッピングするなど、情報の出し方を工夫する。 ・ある関心事を来訪者が選ぶとその人の要望に応じた情報が出てくるようなシステムを作る。 ・そのエリアの痕跡をとどめたもの、人の行いに関するもの、まつわるストーリーに関するものなど、一つの物事・場所でも色々なインデックスを付けることが出来るため、たくさん付けて選択できるようにする。 ・観光ホームページと平和記念資料館ホームページを使いやすくする工夫がいる。 ・広島駅の列車の到着メロディーとして、ひろしま平和の歌やカープの歌を流す。 ・被爆樹木や被爆建物について、地図に落とし込んで、グーグルマッピング等によりそこに行き着くことができるようにする。 ・テーマ性を持ったバーチャルルートを作る。来訪者の関心にあわせた複数のコースを提示するなど、1枚の平面の地図に落とし込むのではなく、立体的に考える。 ・来訪者の滞在日数に応じたコースの紹介や、次回来訪時のコースを設定できるような仕組みや、情報提供を行う。

(ヒアリング調査)

意見	発言者
バーチャルの世界では戦争の本当の恐怖は伝えられない。遺品や被爆者など実際のものとの出合わせ、特に子どもたちの繊細な気持ちや感動、感受性、想像力を呼び起こす。	平和のためのヒロシマ通訳者グループ 小倉代表
ツーリズムで感じたこと、考えたことを発信する場をつくる。	平和のためのヒロシマ通訳者グループ 小倉代表 ハチドリ舎 安彦店主
その場所に行けば、そこで起こったストーリーを音声で聞くことができる仕組みをつくる。	ハチドリ舎 安彦店主
例えば集約サイトをつくるなど、来訪者に分かりやすいように情報を一本化する。	広島平和文化センター 岩崎常務理事
「伝える」動きだけでなく、「伝わるような環境」をつくる。行政側が提示するだけでなく、来訪者自身が探したり選んだりできるきっかけづくりを行う。	88ハウス広島 桃田オーナー
平和を愛する人びとを世界中から集めて巨大なピースフェスティバルを川を舞台に実施する。	Peace Culture Village スティーブン・リーパー代表理事
8月6日に向けて「平和」への意識は高まるが、それは一時的である。継続的に「平和」について考えられる場所を設ける。	広島ゲストハウス-縁- 佐藤取締役
戦争をしている国々の様子について、来訪者(子ども)に身近に捉えてもらう工夫をする。	これからの学びネットワーク 堀江代表

2 ルート設定等について

■ 懇談会意見及びヒアリング調査での意見

▷ ルート設定にあたっての考え方

- ・来訪者が関心のあること(被爆の実相や被爆前からの歴史・文化、復興してきた足跡)や、滞在日数等の旅行条件に合わせて選択できるように、複数のテーマを設定する。
- ・来訪者が考えることができる場、ニーズに応じて選択できる場を組み込む。

(懇談会意見)

	意見
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者には自分の足で歩くのは難しい。市内循環バス「めいぷる一ふ」を使用して巡る。 ・水を身近に感じることができる川や海のそばで、また緑の中で、自分の思いを解き放ち、座って静かに考える場を設ける。 ・色々な観点から来広者のニーズに対応するため、自然、博物館、記念碑、アクティビティなど、自由に選択ができるような工夫をする。 ・いくつかのエリアがあり、エリアとエリアの間を線で結ぶというイメージでいく。 ・広島に住んでいる人も意外と気付いていないところを気付かせる切り口を提示する。
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ性を持ったバーチャルルートを作る。来訪者の関心にあわせた複数のコースを提示するなど、1枚の平面の地図に落とし込むのではなく、立体的に考える。【再掲】 ・広島駅を起点に、めいぷる～ふの特定の便を「めいぷる～ふピースバス」として新たなコース設定する。 ・既存のマップ類を調査・調整する。 ・来訪者の滞在日数に応じたコースの紹介や、次回来訪時のコースを設定できるような仕組みや、情報提供を行う。【再掲】 ・復興してきた広島足跡を実際に辿れるようなストーリーをつくる。

(ヒアリング調査)

意見	発言者
被爆した場所から安全と思われる場所へ逃げて行ったという証言をもとにした体験ができるようなコースを設ける。	ハチドリ舎 安彦店主
宇品エリアには、糧秣支廠、被服支廠、兵器支廠など多数点在しており、郷土資料館をそれらを巡るための拠点とする。	広島市郷土資料館 村上学芸員
被服支廠に係ることは協力が可能である。	広島県平和推進PT 下崎課長
こちらがルートを縛るよりも来訪者自身が数あるコンテンツの中から自由に選択しルート化できるように、たくさんのコンテンツを提供する。	広島平和文化センター 岩崎常務理事
何を繋ぐのかという選定は重要である。被爆建物の保存等も課題の中、解体の可能性があるものには考慮する。	Peace Porter Project 保田代表

▷ **平和に関連する施設や場**

別紙 1 のとおり (49箇所)

▷ **配慮すべき事項**

来訪者が快適に周遊できるよう環境等の整備を行う。

(懇談会意見)

	意見
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・平和記念資料館が平成30年7月にリニューアルオープンするまでの間の入館者への配慮が必要である。 ・平和に関する取組は、「被爆体験」を原点とする。
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人に分かりにくい歩車分離式信号への対応が必要である(歩車分離式であることの必要性の議論など)。 ・平和記念資料館東館のリニューアル内容の検証をする。 ・めいぷる～ぷは二葉の里歴史の散歩道の一部を通るだけになっている。道路を整備することで、より通行が可能となる。 ・比治山の市街地が一望できる展望台が樹木によって遮られ市街地が見えないので早急に整備する。 ・広大旧理学部は草木は伸び放題で、建物はガラスが壊れていて廃墟となっている。維持管理を徹底するとともに、早急に整備方針を決定する。 ・被服支廠は活用内容を早急に検討する必要がある。 ・8月6日の夜におりづるタワーの展望フロアの電気が付いていた。原爆ドームの上に人間が立っている姿が夜空に浮かび、足元では厳粛な雰囲気の中でとうろう流しが行われている。見え方についても、業者と話し合う場を設ける。

(ヒアリング調査)

意見	発言者
広島へは、被爆体験を聞く人ばかりでなく自分たちの心を癒したいと思って来る人もいる。市民は来訪者の聞き手となることも必要である。	平和のためのヒロシマ 通訳者グループ 小倉代表
平和記念資料館は、原爆の拠点施設としてもっと大きな体裁を整えたい。また、レストハウスやおもてなしの空間を整える必要がある。平和記念公園をより居心地の良い場所にすべきである。	広島平和文化センター 岩崎常務理事
来訪者は、広島に来ることがきっかけで、自分にとっての「平和」を考えたいと思っている。	88ハウス広島 桃田オーナー
被爆に関する建物は分散しているため、設定するルート外の他の重要な場所を巡ってもらう機会を逃さないようにする。	Peace Porter Project 保田代表

▷ **ルート案（たたき台）について（別紙2-1～2-3）**

- ① 徒歩と自転車（ピーすくる）による被爆当時の痕跡を残す被爆建造物を巡るルート
- ② めいふる～ぷと徒歩による被爆前後の文化・文学を巡るルート
- ③ 徒歩と自転車（ピーすくる）による市民生活の復興を巡るルート

3 迎える市民の積極的な関与について

■ 懇談会意見及びヒアリング調査での意見

▷ 迎える際の対応

- ・市民や、飲食店等の来訪者と接する人達が説明、案内等ができる環境をつくっていく。
- ・来訪者が、広島が平和を希求する街であると実感できるような施策を展開する。

(懇談会意見)

	意見
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・市民一人一人が自分の言葉で広島を語れる環境をつくることが大事である。 ・AR等によって説明するよりも、市民の言葉で説明することを検討する。 ・シーズンに入ると、ボランティアガイドや平和記念資料館のピースボランティアといった方々の確保が難しい。例えば、ボランティアガイド受付の窓口を一本化することが、温かく迎えることにつながる。 ・温かくおもてなしをするような意思を持った人には、例えば、意思表示のできるようなバッジを作る。来訪者がこのバッジをつけた市民に声をかけやすいマナーを徹底させる。

(ヒアリング調査)

意見	発言者
被爆者に会って体験を聞く機会を設ける。	広島YMCA 中奥事務局長
来訪者が集う飲食店のような場所を営んでいる人達が、ヒロシマについて質問されたら答えられるようにしておく。	ハチドリ舎 安彦店主

▷ 関与のあり方

- ・市民が来訪者と関与・交流できる場の設置とともに、仕組等を検討していく。

(懇談会意見)

	意見
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・一部の関心のある方々が実施する特別な活動としての平和ではなく、市民自らが案内役になるとか、自分たちでツアールートを設定できるなど、広島に住んでいる人達も何らかの形で関与し続ける余地を残せるとよい。 ・広島市内の小・中学生の平和学習への取組が充分でないと聞く。それを解決することにより、広島の受け入れる側のおもてなしにつながるのではないか。 ・人とのつながりは必要だが、広島で、例えば街角で出会った来訪者に良い情報を教えたりする人達を育成し得るのか、そういう人達がいるのかということも、もっと考える必要がある。
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・「外国人のためのおもてなし講座」・トラベルパルインターナショナルの状況をフォローする。 ・めいぷる～ぷを市民が気軽に使えるようになれば、バスの中が市民と外国人来訪者との交流の場になる。

(ヒアリング調査)

意見	発言者
<ul style="list-style-type: none"> ・市民が来訪者や研修生のホストファミリーとなることができる制度をつくる。 ・民間レベルで交流し、市民を知ることができるような場をつくる。 ・広島市民総ボランティア計画(市民が街角で外国人をおもてなしできるような仕組み)や平和ボランティア養成講座等を行う。 ・「見ること、知ること、会うこと、新しい自分になること」というようなわかりやすいキャッチフレーズ(英語版も)をつくり、市民を巻き込んだ動きをつくる。 	広島YMCA 中奥事務局長
来た人同士が話をできる場をつくる必要がある。そしてその人同士をつなぐような人が必要である。	平和のためのヒロシマ通訳者グループ 小倉代表
広島の学生と来訪者が議論をしてみる機会があるとよい。	これからの学びネットワーク 掘江代表
広島城のガイドの育成にあたって、学校教育現場において、当時の軍隊組織に関する内容が省かれているため、ガイドの中でも間違ってしまう情報が多い。是正のためのガイド教育が必要である。	広島城 秋政主任学芸員

第3回ピースツーリズム推進懇談会の 意見交換テーマ

- (1) 「目指す姿の方向性」(案)と「今後の検討の方向性」(案)に係る意見・提案**
- (2) 具体的な検討内容に係る意見・提案**
 - ① 情報発信について**
(伝える内容、発信方法)
 - ② ルート設定等について**
(ルート設定にあたっての考え方、平和に関連する施設や場、配慮すべき事項、ルート案(たたき台)について)
 - ③ 迎える市民の積極的な関与について**
(迎える際の対応、関与のあり方)
- (3) その他意見交換**

次回懇談会の日程

10月23日(月)から10月27日(金)の間で実施予定

後日、事務局から日程調整の連絡